

作目名	かぶ
-----	----

作目名	紅かぶ(高冷地)
-----	----------

月 旬	4			5			6			7			8			9			10			11			12			主要品種	備考
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
高冷地	○								■							○									■	飛驒紅カブ	標高 500~650m		
紅かぶ				○					■							○									■	飛驒飛女カブ	標高 650~800m		
							○									○									■		標高 800m以上		

○ 播種      ■ 収穫

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

飛驒、中濃

(2) 立地条件

①気象条件

発芽適温は15~20℃で、10℃以下、40℃以上では著しく発芽不良となる。根の肥大生育適温13~24℃、地温24~29℃。これらから生育適温は発芽と同様15~20℃と考えられる。

播種は春まきの場合は、平均気温が10℃となるころからが適温となる。秋まきでは平均気温15℃になる35日前が播種適期となるが、これよりも早まきするとウイルス病の被害が多発するので、白寒冷紗被覆によりアブラムシ類の飛来を防ぐ。

冬季の低温期の栽培では抽苔や初期発生が抑制されるので、トンネル被覆が必要で凍害や裂根防止のため適切な温度・水分管理をする。

②ほ場条件

根こぶ病に弱いので、アブラナ科野菜連作ほ場での栽培はさける。苦土石灰によりpH6.0前後に矯正し高うね栽培とする。急激な土壌水分の変動は裂根を生じ品質・収量に大きく影響するので、完熟堆肥を長期的に投入し通気性・保水性のある膨軟な土壌とする。

(3) 栽植本数(10a当たり)

4, 400本

(4) 目標収量(10a当たり)

葉付き4t 球2t

○施肥基準

(1) 施肥基準量 (10a当たり成分kg)

施肥成分	総量	基肥	追肥	
			1	2
窒素	20	14	3	3
りん酸	18	18		
加里	19	13	3	3

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 水田転作や開墾造成地では、施肥前に土壌調査を行い、土壌酸度の矯正とりん酸施用を行う。
- 3 痩せ地や低温期の栽培では基肥を10~20%増施する。

作型名	白かぶ (平坦地)
-----	-----------

月 旬	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品種																														
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																		
露地	○																																	■			○			■			○			■			○			■			○			■			白盃						
トンネル	○																																	■			○			■			○			■			○			■			○			■			○			■			白盃
ハウス	○																																	■			○			■			○			■			○			■			○			■			○			■			白盃

○ は種 △定植 ■ 収穫 (半円) トンネル □ ハウス

○技術体系設定の前提条件

- (1) 対象地域  
岐阜、西濃、中濃
- (2) 立地条件  
①気象条件

発芽適温は15~20℃で8℃以下、30℃以上で著しく劣る。生育の適用範囲は広いが、冷涼な気候を好み、根部の生育適温は13~24℃である。

高温、多湿、長雨下では発育不良や生理障害が発生しやすい。

②ほ場条件

排水が不良でしまりやすい土質のほ場では不適である。乾燥後急激に土壌水分が増加すると裂根を生じ、品質、収量に大きな影響を与えるため注意する。

根こぶ病に弱いため、あぶらな科野菜との連作は避ける。

③栽植株数（10a当たり）

4000株／10a（中かぶ）

(3) 目標収量（10a当たり）

4 t（葉つき）

○施肥基準

(1) 施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総量		基肥	追肥
				1
窒素	化学肥料由来	10	6	4
	有機質肥料由来	4	4	
りん酸	14		14	
加里	14		10	4

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 土壌の通気性を高めるため有機質を施用する。
- 3 ほ場のpHを矯正する。